



徳嶺勝信

ベトナムでも変異種による第4波の感染拡大が続き、7月20日現在で4月27日からの第4波の感染者数は5万9166人、死者数299人、累計感染者数6万2820人、累計死者数は334人となっている。実に感染者数の94%、死者数の90%が4月27日以降のわずか3カ月足らずで生じたことになる。ただ、ベトナム政府も対策を強化、隔離と検査を徹底し、強い社会隔離政策（ロックダウン）とワクチン接種を進めており、感染拡大中でもない不安感は少ない。

半面、経済は大きな影響を受けている。特に南部ホーチミン市はロックダウンで外出禁止が続く、社会活動は事実上厳しく、オンラインでの活動が主流である。生活品の買い出しも制限され、飲食店のデリバリーサービスも停止中だ。ただ、この状況下でも新たなビジネスは誕生しており、特にECサイトの成長は急激で生活必需品の購入配達など、スーパーやサイト単位でいろいろな使い道があり、外出せずとも生活は賄え、不

ベトナム コロナ下 新事業が拡大

便は少ない。行政からの食材配布（ラーメンや缶詰など）もたまにあり、ありがたく活用している。

経済活動も新型コロナとの共存や収束を踏まえて動きだしている。以前も紹介したがワクチンパスポートの試験導入を準備している。特にクアンナム省、キエンザン省フーコック市（島）、カインホア省といずれも世界遺産や国立公園、美しい海などがある人気の観光地で、観光を中心とした経済で成り立ち、コロナの大きな影響を受けている都市である。そのため、いち早く安心して海外からの観光客を引き戻すためにワクチンパスポートを活用する計画だ。

ECサイト、SNSを活用した無店舗型ビジネスも拡大しており、デリバリー専門店舗も急激に増加、コロナ明けの新たなビジネスとして定着する可能性も高い。

現在、沖縄でも新型コロナ感染拡大で苦慮しているが、コロナとの共生も含めた経済活動が望まれる。観光立県の沖縄もコロナ禍の中で先を見据えて準備する必要があることと、新たなビジネススタイルの構築を図るチャンスだと捉える。コロナ禍は知恵を振り絞る期間であり、ぜひ民間も行政も力を合わせてこの難局をチャンスに変えてもらいたい。

（VINACOMPASS代表）

次回は新里紹太・県ソウル事務所長です。